報徳@なう
１０月号

個人からの支援要請が増加！

食品メーカーのサスティナビリティ担当者が続々来所

日本国内の食品ロス年間６００万トンの半分にあたる３００万トンが、すぐに食べられる状態の所謂「フードバンク向き」の食品と言われています。それらを棄てずにフードバンクに回してもらう交渉をするのも、フードバンクの仕事です。

一方で、こちらから相談しなくても、食品メーカーの方から「寄贈したい」と申し出て下さることもあります。９月はそんな食品メーカーが数社、食品寄贈の契約等で報徳食品支援センターにお越しになりました。いずれも企業のサスティナビリティに関する部署の方で、そうした部署を立ち上げて運用している先進的な経営センスをお持ちの食品メーカーなのです。（編集部）



神奈川県で面積が最も小さいながら、人口増加中の「開成町」（2020 年 9 月 1 日時点の人口約 1 万 8000 人）。そこの母子寡婦福祉会主催のフードバンク活動に食品支援を実施。





↑人が歩いて入れる大きさのプレハブ冷凍庫が、赤い羽根共同募金からの助成金で導入されました。

●報徳食品支援センターニュースレター「報徳@なう」
Vol.01 / No.003
●発行所
ＮＰＯ法人 報徳食品支援センター
●発行人：田嶋　享
●編集人：本岡俊郎
●編　集：千葉哲也
●電　話：０９０－３１０７－６４７７
http://小田原報徳フードバンク.com

一本の電話

報徳食品支援センターのパンフレットとホームページに掲載されている連絡先の電話番号は、私個人の携帯電話の番号です。そこにちょくちょく電話がかかってくるようになりました。どこにいても、何時でもかかってきます。

番号だけが表示されている時は、たいていがホームページを見てかけてくる人からなので、少し身構えます。どんな電話の内容かわかりません。

先日かかってきた電話は、コロナで失業し、持ち金を使い果たして朝から何も食べていないという小田原市在住の男性から。万策尽きて、スマホに「フードバンク、小田原」と入力したら、私の携帯番号が出てきた。

安定した収入があった勤め先の飲食店がコロナで閉店。次の仕事は別の業界で慣れなくて退職、自家用車など金目のものは売り払って食いつないできたがどうしようもなくなった・・・。

電気や家電製品などのインフラを確認してから、缶詰等のすぐに役立つ食品を集めました。電気は使えるがガスは止められており、電気ポットや電気炊飯器もないということで、お米は役に立ちません。そこで、報徳食品支援センターの裏にあるスーパーマーケットでお弁当や菓子パンを買って、待ち合わせ場所に行きました。

フードバンクの役割は、基本的に食べ物を渡しておしまいなのですが、今回は事情を聴いて社会福祉協議会の方に連絡し、どういう緊急支援ができるか調べました。翌日、その方と一緒に市役所に行き当座の支援を受けられるようにして、社協からは電子レンジを借り受けました。これでなんとか、その男性はしばらくの間、暮らせるようになったようです。

二十万人が暮らす小田原で、今回たまたまこの方を援けることができました。しかし、似たような状況にいる方は、間違いなくたくさんおられるに違いありません。そう思うと、とてもどかしいです。私どもの活動をもっともっと広く知ってもらうことで、支援できることも増えると思っています。

【副理事長　本岡俊郎】

９月の食品配布実績

【１】箱根町・湯本仲町（高齢者３９名、母子家庭３０世帯）
【２】箱根町・宮城野さくら館（高齢者９３名、母子家庭４０世帯）
【３】開成町・母子寡婦福祉会（母子家庭１７世帯）
【４】小田原市・おだわら児童館連合（子育て世代）
【５】個人支援・随時（増加傾向）



箱根町の湯本と宮城野では自治会の協力を得て高齢者向けにも食品配布。

【理事長より】



私は、スーパーマーケット「ヤオマサ」の二代目を引き継ぎ、現在では私の長男が三代目となり、今年で創業１０２年目を迎えることができました。これもひとえに地元の皆様のお陰と感謝しております。

コロナの終息もいつになるのかと私も心配しておりますが、これからはインフルエンザと重なり、油断はできないと思います。

九月末、当センターに神奈川県社会福祉協議会の福祉サービス推進部の方がお見えになり、色々と話し合いをしました。特に今年は、例年になく県民からの相談が増えているそうで、これまでは行政と住民で話し合って行動してきたことも、企業である私どもも一緒に行動することが重要と感じています。食品を提供して下さる食品メーカーも、それらを受け取る人も、それによって喜び、感謝する心を持って毎日を生きる、明るい世の中にしたいと思います。【理事長　田嶋享】

【十月の活動予定】
●十月六日（火）
箱根町で高齢者と母子家庭への食品配布の会（箱根はまゆう会／会場：仙石原・星槎大学）
●十月十七日（土）
おだわら児童館連合でフードパントリーを実施
●十月十八日（日）
小田原市で母子家庭への食品配布の会（小田原市母子寡婦福祉会／会場：報徳食品支援センター）
●十月二十一日（水）
箱根町で、高齢者と母子家庭への食品配布の会（箱根はまゆう会／会場：湯本・茶屋集会所）

【ボランティアの募集】
http://小田原報徳フードバンク.com/問い合わせ/
☎０９０・３１０７・６４７７（担当・本岡）

●編集後記
９月までの食品入荷量の総量は約二十トン。それだけ支援を必要としている人もいるという事で、単純に喜べない数値でもあります。食品支援は家計への「対処療法」に過ぎませんが、誰かがやることで救われる人がいるのも事実です。（哲）